



だんだん暑さも和らぎ、過ごしやすい季節となってきました。

この季節はおいしいものがいっぱい。食欲の秋ですね。

動物たちはこれからの寒い時期に備え

夏用にかかるくなっていた毛が、冬用のつまった毛に変わっていきます。

季節の移り変わり動物たちも感じています。

今月は・・・日々のお手入れについて！！

1. 爪切り

《ギロチン式》

一般的な動物用の爪切り

トリミングの際にもこの形の爪切りを使用します。



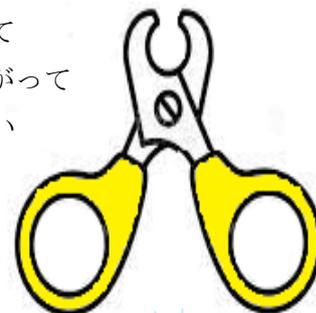
《ニッパー式》

猫などによく使用されて

いるようです。爪が曲がって

ギロチン式では切れない

時などにも使用。



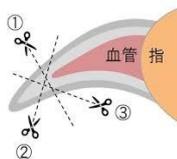
* 爪の切り方 *

まず・・・犬や猫の爪には血管があります！

《白爪の場合》

血管が外から薄く見えるので、血管より手前でストップします。

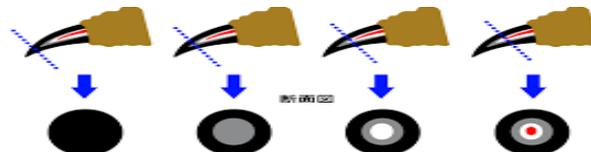
爪を切る順番（断面図）



あとは角を丸くなるように切れば終了です。人用の爪やすりで丸くしてもOK。

《黒爪の場合》

少しずつ切っていく、中心に湿ったような半透明の神経が出てきたら止めてください。



手先ではなく、少し上の方にある爪『狼爪』も忘れずに切ってあげてください。後ろの足は種類によって狼爪があったり無かったりするので、ある場合は忘れずに！！

伸びすぎると肉球に刺さったり、伸びたまま放置すると、血管や神経も伸びていき、爪が伸びているように見えてもほとんど切れない状態にもなります。

特に室内飼いや散歩にあまり出ないなど、すり減る機会が少ない場合は注意が必要です。



2. ブラッシング

《獣毛ブラシ》

皮膚や被毛のマッサージなどに適しています。



《スリッカーブラシ》

プードルなどの被毛が長い犬種に使用します。ブラシを立てて使用すると皮膚を傷つけてしまう恐れがあるので、注意が必要です。



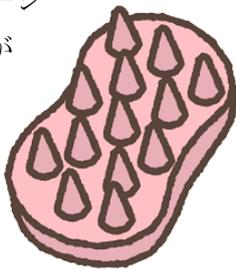
《コーム (くし)》

毛のからまりをといたり、長毛種の換毛期など、毛の塊を取り除くときなどに使用します。



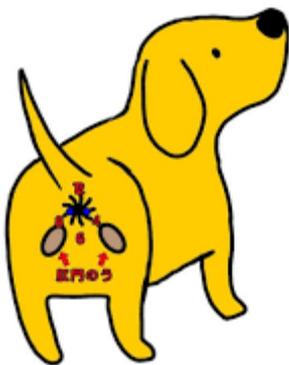
《ラバーブラシ》

短毛種のお手入れはこれが最適。皮膚・被毛のマッサージをしながらお手入れができます。



特に耳の後ろ・しっぽ・脇の下・太ももの内側が毛玉になりやすい場所だよ。気にして見てあげてね☆

3. 肛門囊絞り



肛門の下に匂い袋を持っています。お尻を地面にこすりつけている時など、たまっているサインかも知れません。

肛門囊がたまると、肛門の下2か所に膨れた袋が触ります。

奥から摘み出すように指を動かします。

素手ですると臭い液が手につくので、シャンプーの時にするか、

肛門囊の場所を確認したらティッシュなどを当てて絞ることをお勧めします。



院長先生 コラム

最近の飼い主の方は意識が高く、ツメが恐ろしく長ーく伸びている犬や、毛玉ができてボロ布のようになった犬や猫を見ることが無くなりました。しかし黒い爪の犬や怒る犬や猫の爪を切るのは大変ですね。しかし爪が伸びすぎるとぐると一回転して皮膚を突き破ったり、爪が伸びすぎて指が横向きになって歩かなければいけません。

また、野生の動物はブラッシングしていないじゃないかと思われるかもしれませんが、そんなことはありません。野生の動物は野原やブッシュを駆け回り、木の枝や草などで自然にブラッシングをしているのです。そのような環境にないペットはやはり、ブラッシングをして皮膚に適度の刺激を与えたり不要な被毛を除去したりしなければいけません。日頃のお手入れがペットの健康を保つ秘訣です。

